

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その1) (単位:千円)

政策目標	1	子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街						
重点課題	2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実						
施策の基本方針	札幌の明日を担う子どもたちが、未来に夢を持ち、個性や能力を発揮し、心身ともに健やかに育つ環境づくりを進めるため、自ら考える力や思いやりと豊かな心をはぐくむ取り組みを実施します。また、子どもの相談体制の強化や学びの意欲を育てるなど、のびのびと成長・発達していける教育環境の充実を、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たしながら連携して推進します。							
計画事業の実施状況								
施策番号	事業名	計画事業費	実績事業費				合計	進捗率(%)
			19年度(決算)	20年度(決算)	21年度(決算)	22年度(予算)		
1	さっぽろ学校給食フードリサイクル	—	83	8,127	518	0	8,728	—
1	信頼される学校の創造事業	—	37,764	37,127	37,464	35,520	147,875	—
1	生きいきと学ぶ力の育成事業	—	6,827	6,781	7,651	1,981	23,240	—
1	国際理解教育推進事業(外国語指導助手配置)	126,000	0	17,444	35,980	53,980	107,404	85.2
1	家庭教育事業	—	15,812	15,133	14,601	15,444	60,990	—
1	学校図書館地域開放事業	18,000	1,063	2,976	5,785	7,776	17,600	97.8
1	学校・地域連携事業	—	2,175	2,175	2,198	2,475	9,023	—
1	札幌市立大学大学院設置支援事業	—	0	96,000	1,131,383	0	1,227,383	—
1	(仮称)市立認定こども園整備事業【再掲】	533,000	86,313	392,345	0	0	478,658	89.8
1	札幌市奨学金の拡充	77,000	0	14,542	28,495	42,006	85,043	110.4
1	幼児教育の振興を図る新たなしくみの構築	—	6,677	18,751	18,489	17,707	61,624	—
1	新しいタイプの定時制高校「市立札幌大通高等学校」の設置	2,670,000	145,219	3,360	2,377,286	306,000	2,831,865	106.1
1	特色ある市立高校づくり	40,000	11,139	9,116	6,220	7,300	33,775	84.4
2	児童家庭支援センター体制整備	57,000	0	2,000	2,000	18,184	22,184	38.9
2	いじめ・不登校対策の推進事業	352,000	24,048	79,124	79,124	79,124	261,420	74.3
2	児童クラブなどにおける障がいのある子どもの対応の充実	78,000	22,127	22,960	44,977	52,992	143,056	183.4
2	特別支援学級の整備	124,000	32,242	51,668	23,810	27,336	135,056	108.9
2	特別支援教育の推進体制の充実	1,119,000	44,006	90,148	112,296	138,394	384,844	34.4
2	豊明高等養護学校における教育の充実	271,000	1,833	245,146	0	0	246,979	91.1
2	地域小規模児童養護施設の整備	21,000	0	0	0	8,000	8,000	38.1
3	アジア学生交流事業	3,000	0	377	277	0	654	21.8
3	わたしたちの児童会館づくり事業	4,000	1,001	1,000	1,000	1,000	4,001	100
3	さっぽろ夢大陸「大志塾」事業	15,000	3,933	3,387	3,060	2,850	13,230	88.2
3	こどものまち「ミニさっぽろ」事業	18,000	4,150	8,070	6,048	6,000	24,268	134.8
3	子どもの美術体験事業	4,000	0	2,000	3,800	9,500	15,300	382.5
3	子どもの映像制作体験事業	5,000	0	1,000	1,000	1,000	3,000	60
3	佐藤忠良関連施設整備事業(H20終了)	358,000	110,738	222,414	0	0	333,152	93.1
3	Kitaraファーストコンサート事業	115,000	28,761	28,761	27,851	25,781	111,154	96.7
3	子どもの自然体験活動事業	—	18,823	15,423	12,779	13,744	60,769	—
3	青少年科学館展示物整備事業	40,000	39,900	0	0	0	39,900	99.8
3	児童会館における中・高校生の利用促進	183,000	11,629	33,300	50,111	71,027	166,067	90.7
3	ミニ児童会館の新設	645,000	123,465	49,115	88,819	92,800	354,199	54.9
3	放課後子どもプランの推進	—	0	6,588	0	0	6,588	—
3	子どもの権利の推進	134,000	10,664	18,904	54,148	52,600	136,316	101.7
合計(計画事業費が「—」の事業は除く)		7,010,000	702,231	1,299,157	2,952,087	1,003,650	5,957,125	85

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その2)

政策目標		1	子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街					
重点課題		2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実					
達成目標の状況								
施策番号	項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
1	1	リサイクル堆肥を使用して栽培した作物の提供校数	2校	272校	全小中学校 (305校)	全小中学校 (305校)	全小中学校 (305校)	全小中学校
1	1	教職員以外からの学校評価を実施している小中学校の割合	75%	90%	95%	69%	100%	100%
1	1	中学校における職場体験の実施校率	51%	68.4%	85.7%	74.5%	100%	100%
1	1	ALT配置人数	43人	43人	48人	53人	58人	58人
1	1	家庭教育学級数	206学級	210学級	205学級	203学級	214学級	214学級
1	1	学校図書館地域開放校数(小・中学校)	87校	90校	93校	96校	99校	99校
1	1	[学校・地域連携]事業実施校数	40校	45校	50校	55校	60校	60校
1	1	[札幌市立大学]大学院設置	—	—	検討	着手	設置	設置
1	1	[札幌市立大学]民間企業等からの受託研究数の増	—	—	—	—	15件	15件
1	1	(仮称)市立認定こども園の開園	—	準備	準備	開園		開園 (21年度)
1	1	奨学金支給対象数	456人	463人	698人	1,171人	1,315人	1,000人
1	1	(仮称)札幌市幼児教育センター[正式名称:札幌市幼児教育センター]の開設	—	設置	開設			開設 (20年度)
1	1	市立札幌大通高等学校の開設	—	準備	開設			開設 (20年度)
1	1	[特色ある市立高校]新たに導入した学科やコースなどの制度数(累計)	5制度	5制度	5制度	7制度	8制度	8制度
2	2	児童家庭支援センター設置数(累計)	2カ所	2カ所	2カ所	2カ所	4カ所	4カ所 (21年度)
2	2	[いじめ・不登校対策]小学校の相談時間数	—	月2時間	月4時間	月4時間	月4時間	月4時間 (20年度)
2	2	[いじめ・不登校対策]中学校の相談時間数	週6時間	週6時間	週8時間	週8時間	週8時間	週8時間 (20年度)
2	2	障がいのある子どもがいる場合の指導員配置や助成額の充実(障がいのある児童の登録数)	2人以上	1人以上				1人以上 (19年度)
2	2	特別支援学級設置率	43%	49%	55%	58%	64%	55%
2	2	特別支援教育巡回相談員配置数	3人	10人	10人	10人	10人	10人 (19年度)
2	2	特別支援教育支援員活用体制の構築	—	—	構築	整備・拡大	整備・拡大	構築 (20年度)
2	2	豊明高等養護学校の間口数	18間口	18間口	19間口	20間口	22間口	21間口
2	2	地域小規模児童養護施設設置数	—	—	—	—	1カ所	1カ所
3	3	[アジア学生交流]市民参加者数(当事業に参加した市民の数)	—	—	321人	200人	—	500人
3	3	[わたしたちの児童会館]子ども運営委員会設置数(累計)	12館	60館	全館 (155館)	全館 (159館)	全館 (164館)	児童会館、ミニ児童会館全館
3	3	[さっぽろ夢大陸「大志塾」]参加人数	186人	167人	255人	225人	200人	200人
3	3	[こどものまち「ミニさっぽろ」]参加人数	3,440人	4,428人	3,096人	2,945人	3,000人	5,000人
3	3	[子どもの美術体験]参加児童数(累計)	—	—	2,119人	4,705人	7,023人	3,200人
3	3	[子どもの映像制作体験]参加者数(累計)	—	—	17人	37人	57人	50人
3	3	[佐藤忠良関連施設]施設開設	—	解体・設計・ 作品選定	開設			開設 (20年度)
3	3	[Kitaraファーストコンサート]学校の参加率	94.2%	92.3%	95.5%	91.9%	95.0%	95.0%以上

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その3)

政策目標	1	子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街					
重点課題	2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実					
達成目標の状況							
施策番号	項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
3	林間学校参加者の親から見た子どもたちの成長度合い(5点満点)	3.58	未実施	3.64	未実施	4.00	4.00
3	[青少年科学館]入場者数	292,854人	351,645人	342,258人	328,168人	352,000人	352,000人
3	[児童会館の中・高校生]夜間利用実施館数	20館	40館	60館	80館	103館	104館
3	ミニ児童会館数	40館	51館	55館	60館	68館	70館
3	放課後子どもプラン事業計画の策定	—	検討	策定			策定 (19年度)
3	子どもの権利条例の制定	—	準備	制定	推進	推進	制定 (20年度)

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その4)

政策目標	1	子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街
重点課題	2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実
主 な 取 組 内 容		
施策1	学びの意欲を育てる学校教育の推進	
	19年度(実績)	20年度(実績)
	<ul style="list-style-type: none"> ●重点校(5校)において学校教育活動全体でフードリサイクルに取り組み実践活動を通して食育・環境教育を推進 ●義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業実施 ●札幌市教育研究推進事業、学校研究委託事業を実施 ●子どもや地域住民の読書活動を盛んにすること等を目的に学校図書館を地域に開放。19年度新規開設3校(ほか開設校計87校) ●学校・地域連携事業の実施(19年度新規実績5校) ●「札幌市の幼児教育振興を図る新たなしくみづくり」を策定 ●市立札幌大通高校PFI事業者選定、暫定校舎改修工事実施 ●「札幌市における中高一貫教育のこれまでの検討について」をとりまとめて公表し、市民意見の募集を実施 ●札幌市奨学金拡充に関する計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> ●重点校(7校)及び栽培活動実践校(12校)でリサイクル堆肥を利用した栽培活動を実施し、食育・環境教育を推進 ●学校評価の充実・改善のための実践研究を実施 ●札幌市教育研究推進事業、学校研究委託事業を実施 ●外国語指導助手(ALT)48名配置(19年度より5名増員) ●子どもや地域住民の読書活動を盛んにすること等を目的に学校図書館を地域に開放。20年度新規開設3校(ほか開設校計90校) ●学校・地域連携事業の実施(20年度新規実施5校) ●奨学金採用人数を171人増加。「定時制枠」と「障がい枠」の新たな採用枠を設定し、それぞれ、11人、4人を採用 ●「札幌市幼児教育センター」の開設 ●市立札幌大通高校開設、新校舎建築工事実施 ●市立高校合同説明会、中高一貫教育検討協議会の開催
	21年度(実績)	22年度(予定)
	<ul style="list-style-type: none"> ●フードリサイクル実践校64校でフードリサイクルに取り組み、実践活動を通して食育・環境教育を推進 ●学校評価の充実・改善のための実践研究を実施 ●札幌市教育研究推進事業、札幌市研究開発関連事業における「学ぶ力の育成」研究事業を実施 ●外国語指導助手(ALT)53名配置(20年度より5名増員) ●子どもや地域住民の読書活動を盛んにすること等を目的に学校図書館を地域に開放。21年度新規開設3校(ほか開設校計93校) ●学校・地域連携事業の実施(21年度新規実施5校) ●札幌市立大学大学院施設工事竣工、認可申請等 ●奨学金採用人数を473人増加(レベルアップ分計362人) ●札幌市幼児教育センター機能の充実、幼児教育の振興を図るための新たな施策の実施 ●市立札幌大通高校新校舎建築工事竣工(22年2月) ●中高一貫教育校の設置可否決定に向けた検討の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●フードリサイクル実践校74校でフードリサイクルに取り組み、実践活動を通して食育・環境教育を推進 ●札幌市教育研究推進事業、札幌市研究開発関連事業における「学ぶ力の育成」研究事業を実施 ●外国語指導助手(ALT)58名配置(21年度より5名増員) ●子どもや地域住民の読書活動を盛んにすること等を目的に学校図書館を地域に開放。22年度新規開設3校予定(ほか開設校計96校) ●学校・地域連携事業の実施(22年度新規実施5校予定) ●奨学金採用人数を144人増やす(レベルアップ分計548人) ●区内の幼稚園・保育所・小学校との連携体制と特別な教育的支援を必要とする幼児への支援体制の構築 ●中高一貫教育校の設置可否決定に向けた検討の実施
施策2	健やかな育ちの推進	
	19年度(実績)	20年度(実績)
	<ul style="list-style-type: none"> ●スクールカウンセラーを学校に配置し、いじめ・不登校等、生徒指導上の課題に対応していくための教育相談体制の充実を図る。スクールカウンセラーを全ての小学校に派遣、スーパーバイザーの増員を実施 ●児童クラブ等における障がいのある子どもがいる場合の指導員配置や助成について、障がいのある児童数が2名以上であるものを1名以上へ充実 ●特別支援学級の開設(小学校27校29学級、中学校3校3学級)、簡易整備への追加整備(中学校2校) ●特別支援教育巡回相談員を3名から10名に増員。特別支援教育研究モデル事業における地域ボランティアに係るモデル事業、北翔・豊成看護師配置モデル事業等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●夜間、休日等における児童虐待通告への初期調査業務を既存の児童家庭支援センター2か所に業務委託し実施 ●スクールカウンセラーによる小学校、中学校における相談時間を増やすなど充実を図った ●児童クラブ等において、障がいのある児童の登録数が1名以上の場合に指導員加配や助成を実施 ●特別支援学級の開設(小学校17校21学級、中学校7校8学級)、簡易整備への追加整備(小学校9校、中学校1校) ●特別支援教育巡回相談員配置モデル事業、特別支援教育支援員活用事業(学びのサポーター活用事業)、北翔・豊成養護学校看護師配置モデル事業等の実施 ●豊明高等養護学校における平成22年度までの3間口増に対応するための、増築、改修等の実施
	21年度(実績)	22年度(予算)
	<ul style="list-style-type: none"> ●夜間、休日等における児童虐待通告への初期調査業務を既存の児童家庭支援センター2か所に業務委託し実施 ●全ての小学校・中学校にスクールカウンセラーを配置 ●児童クラブ等において、障がいのある児童の登録数が1名以上の場合に指導員加配や助成を実施 ●特別支援学級の開設(小学校12校12学級、中学校8校8学級) ●特別支援教育巡回相談員配置モデル事業、特別支援教育支援員活用事業(学びのサポーター活用事業)、北翔・豊成養護学校看護師配置モデル事業等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童家庭支援センターについて、22年度中に2カ所増設 ●児童クラブ等において、障がい児対応の指導員派遣回数を充実するとともに、児童クラブに障がい児の登録がなく、直接来館のみの利用がある場合にも指導員を派遣 ●特別支援学級の開設(小学校18校18学級、中学校5校6学級) ●特別支援教育巡回相談員配置モデル事業、特別支援教育支援員活用事業(学びのサポーター活用事業)、北翔・豊成養護学校看護師配置モデル事業等の実施 ●地域小規模児童養護施設の開設

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その5)

政策目標	1	子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街				
重点課題	2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実				
主な取組内容						
施策3	自らが考え思いやりと豊かな心をはぐくむ環境づくり					
19年度(実績)		20年度(実績)				
<ul style="list-style-type: none"> ●児童会館等の子ども運営委員会を新たに48館設置。北郷児童会館改築に際し子ども検討委員会を設置 ●体験活動事業「大志塾」を実施し、小学生167人が参加 ●職業・市民体験事業「ミニさっぽろ」を実施。小学3、4年生延べ4,428人参加 ●佐藤忠良関連施設整備のための実施設計及び作品購入 ●Kitaraファーストコンサート実施。205校15,162人児童参加 ●林間学校等に1,872人の児童生徒が参加 ●青少年科学館の力学系展示物を更新 ●児童会館の中・高校生夜間利用を、20館増の40館で実施 ●ミニ児童会館について、余裕教室等を活用し4館、学校施設方式児童育成会からの転換により7館を整備 ●「札幌市放課後子どもプラン(案)」パブリックコメントを実施 ●(仮称)子どもの権利条例素案を策定しパブリックコメントを実施 		<ul style="list-style-type: none"> ●「21世紀東アジア青少年交流計画」の受け入れ団体と協力し、訪問団との学校交流(高校)、地域住民との交流を実施 ●児童会館等の子ども運営委員会を全館(新規95館、計155館)で設置。北郷児童会館改築での子どもの意見の取り入れ ●体験活動事業「大志塾」を8回に渡り実施。255人が参加 ●職業・市民体験事業「ミニさっぽろ」を2日間実施し、小学3、4年生延べ3,096人が参加 ●美術体験事業「ハロー！ミュージアム」として小学5年生833人を芸術の森へ招待し、ワークショップ等を実施 ●中学生を対象に映画制作ワークショップを実施。17人参加 ●芸術の森野外美術館内に「佐藤忠良記念子どもアトリエ」をオープン ●Kitaraファーストコンサートに、211校15,676人の児童参加 ●林間学校等に1,779人の児童生徒が参加 ●青少年科学館の中長期的なあり方の検討に向け準備実施 ●児童会館の中・高校生夜間利用を、20館増の60館で実施 ●小学校の余裕教室等活用のミニ児童会館4館(空白校区2館、民間児童育成会のみ小学校区2館)を新規整備 ●「札幌市放課後子どもプラン」の策定及び同プランの推進 ●子どもの権利条例の制定及び救済機関の設置準備 				
21年度(実績)		22年度(予定)				
<ul style="list-style-type: none"> ●「21世紀東アジア青少年交流計画」に併せ、交流事業実施 ●新設のミニ児童会館4館に子ども運営委員会を設置するほか、全市の子ども運営委員会からの活動報告や意見交換会、遊びを通じた交流などの事業(通称:さっぽろ子どもサミット)を実施。 ●体験活動事業「大志塾」を8回に渡り実施。225人が参加 ●小学3、4年生対象の職業・市民体験事業を2日間実施 ●小学5年生2,000人を芸術の森招待。小学校2校にアーティスト派遣 ●中学生対象の映画制作ワークショップを実施。上映会開催 ●Kitaraファーストコンサートを、延べ5日間、10回実施 ●林間学校、アタックキャンプ、野外活動指導員研修を実施 ●社会教育委員会議から青少年科学館の展示物整備の今後の方向性について答申書が提出された。 ●児童会館の中・高校生夜間利用を、20館増の80館で実施 ●小学校の余裕教室等活用のミニ児童会館5館を新規整備 ●放課後子ども教室推進モデル事業の実施等 ●子どもの権利救済機関(名称:子どもアシストセンター)開設、子どもの権利条例の広報普及、子どもの権利委員会設置 		<ul style="list-style-type: none"> ●「21世紀東アジア青少年交流計画」に併せ、交流事業実施 ●新設のミニ児童会館5館に子ども運営委員会を設置 ●体験活動事業「大志塾」を8回に渡り実施。200人参加予定 ●小学3、4年生対象の職業・市民体験事業を2日間実施 ●小学5年生2,000人を芸術の森招待。小学校2校にアーティスト派遣 ●中学生対象の映画制作ワークショップを実施。上映会開催 ●Kitaraファーストコンサートを、延べ5日間、10回実施 ●林間学校、アタックキャンプ、野外活動指導員研修を実施 ●答申書を踏まえた青少年科学館の展示物の整備を推進 ●児童会館の中・高校生夜間利用を、23館増の103館で実施 ●小学校の余裕教室等活用のミニ児童会館8館を新規整備 ●放課後子ども教室推進モデル事業の実施等 ●子どもの権利に関する推進計画の策定 				
主な施設、サービスの整備水準						
施設(サービス)名	18年度末(現状)	19年度末(実績)	20年度末(実績)	21年度末(実績)	22年度末(予定)	22年度末(目標)
外国語指導助手	43人	43人	48人	53人	58人	58人
学校図書館地域開放	87校	90校	93校	96校	99校	99校
奨学金(高校・大学生)	456人	463人	698人	1,171人	1,315人	1,000人
児童家庭支援センター事業	2カ所	2カ所	2カ所	2カ所	4カ所	4カ所
スクールカウンセラー	小学: ー 中学: 週6時間	小学: 月2時間 中学: 週6時間	小学: 月4時間 中学: 週8時間	小学: 月4時間 中学: 週8時間	小学: 月4時間 中学: 週8時間	小学: 月4時間 中学: 週8時間
児童クラブなどの障がい児受入	2人以上で 指導員加配、助成	1人以上で 指導員加配、助成	1人以上で 指導員加配、助成	1人以上で 指導員加配、助成	1人以上で 指導員加配、助成	1人以上で 指導員加配、助成
特別支援教育巡回相談員	3人	10人	10人	10人	10人	10人
地域小規模児童養護施設	ー	ー	ー	ー	1カ所	1カ所
児童会館の中・高校生夜間利用	20館	40館	60館	80館	103館	104館
ミニ児童会館	40館	51館	55館	60館	68館	70館

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その6)

政策目標	1	子どもを生み育てやすく、健やかにはぐくむ街
重点課題	2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実
評価(成果)		課題
施策1	学びの意欲を育てる学校教育の推進	
<p>フードリサイクル堆肥を利用して栽培した食材の使用日に合わせてリサイクルや地産地消について指導したことで児童生徒の食への興味関心が高まった。</p> <p>地域人材の活用により、子ども達の興味・関心を高める授業が行われた。また、札幌市研究開発事業を通し、各学校が信頼される学校の創造に係る課題について様々な実践研究に取り組み、学校教育の充実と発展に寄与した。</p> <p>中学校に配置するALTが41名に増えたことにより、ALTとのTT授業率が16%から18%に向上した。</p> <p>学校図書館地域開放事業、学校・地域連携事業については学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし協力して進めており、明日を担う子どもたちの成長・発達に寄与している。</p> <p>奨学金制度拡充の周知を図った結果、申込者が増加し、緊急経済対策として支給費を補正した分も合わせると、採用者も前年度より473人多い1,171人となった。</p> <p>札幌市幼児教育センターにおいて、私立・市立幼稚園の連携の基盤づくり等の取組を実施した。</p> <p>市立札幌大通高校の新校舎が22年2月に竣工した。</p>	<p>リサイクル堆肥を使用して栽培した作物の種類や提供回数が増加が必要。</p> <p>外国語指導助手について、中学校への増員を確保しつつ、小学校からの派遣要請への対応について引き続き検討する必要がある。</p> <p>学校・地域連携事業による様々な活動を通じて、学校と地域の連携が深まることにより、地域住民にとって学校が身近なものとなり、地域教育力の向上が見られるが、運営が学校中心になりがちであり、学校側の負担に配慮する必要がある。</p> <p>奨学金について、一般財源の負担軽減のため、奨学金への寄付募集に関するPR活動を推進するなど、計画的な寄付金の確保に努める必要がある。</p> <p>私立幼稚園との緊密な連携と、特別な支援を必要とする幼児への支援体制の構築が必要。</p> <p>大通高校新校舎に関するPFI事業者との調整業務を密に行うとともに、円滑な学校運営ができるようなサポートが必要</p>	
施策2	健やかな育ちの推進	
<p>児童家庭支援センターについて、身近な地域に24時間体制で電話相談できる体制を整備することで、複雑多様化する児童問題に関する悩みに適切に対応し、市民の子育て不安の解消を図ることができている。</p> <p>各学校における、スクールカウンセラーの相談件数も増えており、特に、中学生や高校生とその保護者に広く理解され、不登校以外の相談も多くなり多岐にわたっている。</p> <p>特別支援学級未設置校への開設を行ったことにより、児童生徒が区域外の特別支援学級に通学しなければならないことによる負担が軽減されるとともに、同じ地域の子どもたちとの交流の機会が多くなり、地域社会との結びつきが強くなる。</p> <p>特別支援教育巡回相談員の学校支援体制を充実させたことにより、児童生徒に適切な支援を実施することができた。</p> <p>豊明高等養護学校の施設整備により、21間口の定員を確保し、札幌圏の高等特別支援学校の定員が増加した。</p>	<p>スクールカウンセラーを全ての小、中、高に配置したが、年齢や経験年数等、様々なスクールカウンセラーを任用していることから、スクールカウンセラーの質の向上が課題である。</p> <p>特別支援学級未設置校への新設要望が増加しており、簡易な整備の導入による経費の削減を図っても、予算上の制約から、特別支援学級新設の要望に応ずることが困難。</p> <p>特別支援教育巡回相談員について、学校の訪問ができない状況や、より高い専門性を求められる場合があり、学校支援体制の整備が必要である。</p> <p>豊明高等養護学校の間口増により、札幌圏の高等特別支援の定員は増加したが、道央圏の志願者は、今後も数年は増加傾向が見込まれることから、その対応について北海道教育委員会と協議を継続していく必要がある。</p>	
施策3	自らが考え思いやりと豊かな心をはぐくむ環境づくり	
<p>子どもが、日常ではできない社会体験や野外体験等の機会を提供することを通して、創造性や自主性、社会の一員としての自覚や責任感などをはぐくむことができた。また、文化・芸術等に対する関心、国際理解を促進することができた。</p> <p>より充実した放課後の居場所づくりを進めるため「札幌市放課後子どもプラン」を策定。ミニ児童会館の整備等により、安全・安心な放課後の居場所が確保できた。さらに、児童会館における中・高校生の夜間利用拡大においては、ボランティア活動の広がりや地域住民と児童会館との関係強化などの効果も現れている。事業・運営への子ども参加の仕組が全館で整い、他館との交流の場が広がるなど子ども自身が一層責任感や主体性を持って活動できる児童会館が実現できた。</p> <p>子どもの権利に関して、条例制定に向けた検討や意義等について広報普及を進め、平成20年11月に条例を制定した。</p>	<p>活動場所や指導者の確保などの課題がある中で、参加者の拡大や多様な体験機会の確保、より質の高い体験機会の提供に困難が伴う。事業の充実のために、引き続き、運営体制や実施方法等についての見直しや工夫が求められるほか、市民や企業との一層の連携・協力が必要である。</p> <p>放課後の居場所の確保のため、児童会館等の活用やミニ児童会館整備だけではなく、放課後子ども教室推進事業の実施等も含め、学校や地域、保護者等との連携を図る必要がある。中・高校生の夜間利用については、全館実施を目指す、夜間占用利用団体・地域の理解に努めるとともに実施方法等についても柔軟な対応が必要である。</p> <p>子どもの権利について正しい理解が図られるよう、広報・普及により一層努める。また、子どもの権利に関する総合的な推進計画を策定し、子どもの権利がより一層保障される社会の実現を目指す必要がある。</p>	

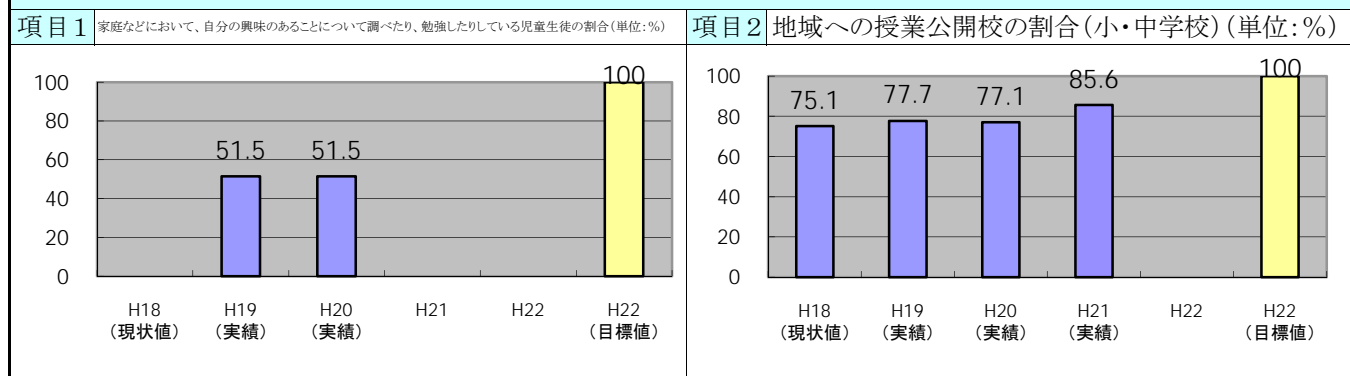
平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その7)

政策目標	1	子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街
重点課題	2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実
今後の重点取組		
<p>外国語指導助手配置について、23年度以降の「小学校外国語活動」完全実施に向け、現行の中・高等学校配置ALTを派遣する方法では数が限られるため、適切な派遣回数、方法等について検討を行い、早急に整備をする必要がある。</p> <p>札幌市奨学金について、個人篤志家からの高額寄附によって平成20年度に新設した基金の運用益により、当該計画の目標である1,000人を1年前倒しで達成できる見込みだが、この基金による採用拡大部分は当該計画の拡充(レベルアップ部分)に含めないことから、平成22年度も引き続き採用者を拡大することで、1,300人程度の奨学生を採用できる見込みである。</p> <p>いじめ・不登校対策の推進について、スクールカウンセラーの質の向上やいじめの根絶、不登校の改善に向けた、効果的なスクールカウンセラーの活用について検討していく。</p> <p>市立高校改革の取組のうち、中高一貫教育について、設置の可否を含む検討を進める。</p> <p>総合的な放課後対策としては、「札幌市放課後子どもプラン」に基づき、地域の実情に応じた柔軟な対応を行いながら、将来的にはすべての小学校区で放課後などの居場所を確保することを目標に取り組んでいく。</p> <p>「子どもの権利条例」に基づき、広報普及や子どもの参加の取組、「子どもアシストセンター」の適切な運用に努めるとともに、推進計画の策定や「子どもの権利委員会」における施策の検証などを通して、市民及び市が一体となった、子どもの権利保障の取組を進めていく。</p>		

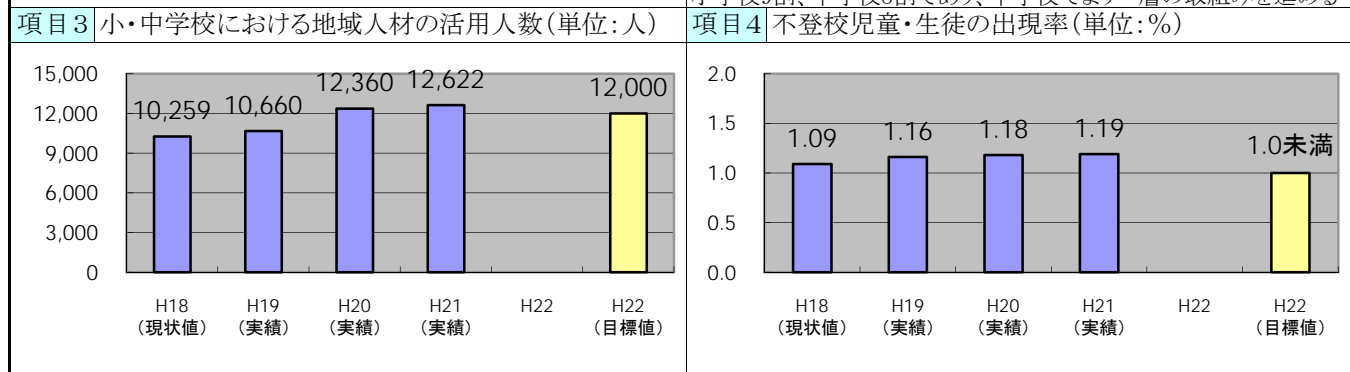
平成22年度第2次札幌新まちづくり計画施策進行調書(その8)

政策目標	1	子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街
重点課題	2	未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実

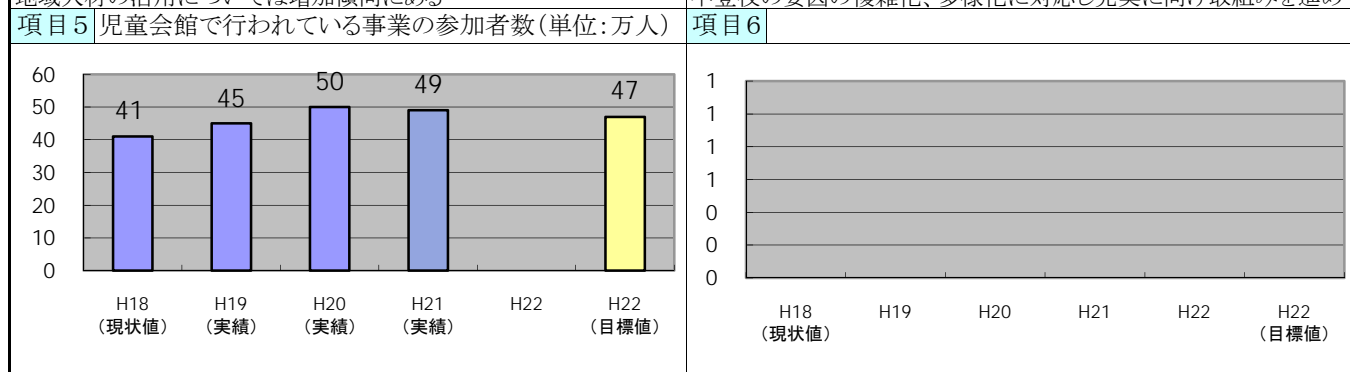
成果指標等の動向



【実績値の推移に係る検証】
 小学校9割、中学校8割であり、中学校でより一層の取組みを進める



【実績値の推移に係る検証】
 地域人材の活用については増加傾向にある
 【実績値の推移に係る検証】
 不登校の要因の複雑化、多様化に対応し充実に向け取組みを進め



【実績値の推移に係る検証】
 H21は新型インフルエンザによる行事中止の影響を受けた
 【実績値の推移に係る検証】

成果指標等から見た重点課題の評価

この重点課題においては、「札幌の明日を担う子どもたちが、未来に夢を持ち、個性や能力を發揮し、心身ともに健やかに育つ環境づくりを進めるため、自ら考える力や思いやりと豊かな心をはぐくむ取組みを実施すること。子どもの相談体制の強化や学びの意欲を育てるなど、のびのびと成長・発達していける教育環境の充実を、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たしながら連携して推進すること。」を施策の基本方針に掲げ、その方針に沿った成果指標を設定している。

これらの成果指標について、平成22年度の目標値を100%とするなど、高い目標を設定していることもあり、これらの成果指標の数値のみをもって、当重点課題全体の評価を行うことは難しいが、各事業については着実な取組みが行われており、各々課題はあるものの、全体としては順調に推移している。